

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2020年(令和2年)5月1日 《年6回・奇数月発行》

会報 第112号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net【カンボジア事務所】Phon Preytea, Sangkat Chaom Chao, Khan Por Senchy
Khan Por Senchy, (Borey Newtown) Phnom Penh
(855) 78-784-808 (855) 17-599-707【ホームページ】 [カンボジア支援](#) [検索](#)【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#) [検索](#)

お知らせ

新型コロナウイルスの感染予防のため、7月2日～8日に予定していた45回「里子訪問・学校訪問の旅」を中止させて頂きました。次回の旅は11月5日～11日を予定しております。

「里子訪問・学校訪問の旅」に会員7人参加

3月5日～11日、通算44回目の「里子訪問・学校訪問の旅」が行われ、7人の本会会員が参加した。

旅の参加者で構成する「里子訪問・学校訪問の旅実行委員会」が主催、本会は側面からサポートした。

5日午前中、成田国際空港に集合、ANA直行便で一路カンボジアの首都プノンペンへ。

6日、コンボンチャム県にある「アムペル小学校」(生徒数1223人)を訪問し井戸贈呈式に参加、その後生徒たちに学用品セットを配り、しばし交流した。

7日、プノンペン市内にあるスラム街を訪問、日本から持参した衣料品を配布した。8日、本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」(コンボ

ンスプー県児童数15人)を訪問、その後近くにあるスラム街を訪問し、子どもたちに食料品を配布した。

9日、村で暮らす教育里子の家庭を訪問、里親さんを中心に、支援する里子と交流した。

10日、プノンペン市内のワットコフ小学校(生徒数1358人)を訪問、出前授業として音楽指導などを行った。午後は希望者を中心に、キリングフィールドやトゥールスレン博物館を見学した。

その夜のANA直行便で帰国、11日早朝、全員無事成田国際空港に到着した。次回、45回目の旅は11月5日～11日を予定している。(7月はコロナウイルス感染防止のため中止します。)



学用品を配りました



里子訪問をしました

コロナで始まりコロナで終わりました

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸恒次

3月3日から20日まで、カンボジアに滞在した。コロナで始まり、コロナで終わった滞在だった。

5日～11日に実施した44回「里子訪問・学校訪問の旅」は当初12人参加だったが、コロナ感染を嫌い直前に5人キャンセル、7人参加のやや寂しい旅行だった。それでも参加した皆さんは元気はつらつ、感動を胸に全員無事帰国することができた。

その後の延泊活動、出足は良かったがラスト3日～4日になるとカンボジアでもコロナ感染者が急増、とうとう全国すべての学校が臨時休校してしまった。おかげで、予定していた小学校井戸贈呈式の2つ

が中止になった。

また、マレーシアで行われたイスラム教徒の集会から戻ったカンボジア人イスラム教徒が菌を持ち帰り、感染者が一気に増加したため、帰国直前に予定していた里子訪問も中止に追い込まれた。

気候はといえば、滞在中雨が一度降っただけで砂埃がひどく、その意味で日本から持参したマスクが効果を発揮した。

滞在後半から気温が急上昇、最高気温38度の中で活動した。救いは低湿度、日本の夏のようにじりじりと締め付けるような暑さではないので助かった。

活動を終え帰国すると早くも桜が開花



温度計は38度を示していた

創立20周年記念祝賀会開催のご案内

本会は、2000年1月に創立して以来、ここに20周年を迎えるに至りました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と、深く感謝申し上げます。

つきましては、創立20周年を記念し心ばかりの粗宴を催したいと存じます。ご多用の折誠に恐縮ではありますが、何卒ご臨席賜りますよう、謹んでご案内申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大防止により、4月11日の開催を12月12日に延期させていただきました。

- ◎日時 2020年12月12日(土) 午後1時～3時
- ◎会場 京王プラザホテル 47階 あさひの間(JR新宿駅西口 徒歩5分)
- ◎会費 1万円(郵便振込票にて事前に送金をお願いいたします)
- ◎参加申込み締め切り日 11月12日(木)

【主な内容】

記念式典、会食会、20年の歩みをスライド上映、その他

※本会会員でなくても出席可能です。お申込は下記へお願いいたします。

☎ 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば75年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。



里親さん、ありがとう

【教育里親会費】子ども1人につき 1年間3万円。

- ・内訳
子どもへ直接支援する額=12,600円(42%)
年会費(会の運営に回す額)=17,400円(58%)
- ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
- ・一括納入、分割納入(毎月、年2回)のどちらでも可。
- ・所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】・少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合もありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】・子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)
・年3回実施の「里子訪問の旅」に参加し、里子に会うこともできます。

Facebookに本会の活動を随時投稿しています

お寺の中の小学校で出前授業

3月10日、44回「里子訪問・学校訪問の旅」の最終日、プノンペン市内にある、宿泊ホテルから歩いて5分の「ワットコフ小学校」(生徒数=358人)を旅の参加者7人が訪問、出前授業を行った。

今回から、新6年のクラス(33人)を訪問、平古場副理事長のハモニカ伴奏で日本の童謡を教えたり、日本についての説明を行った。

コロナウイルス予防のためマスクをしている生徒が多かったが、楽しい学びと交流のひとつを過ごした。

日本の童謡を教えました



児童養護施設

夢ホーム日記

カンボジアのコンボンスプー県にある児童養護施設「夢ホーム」は、両親や片親を亡くしたり、親がいても不遇な家庭環境にある子どもたちの教育と生活の場として、会員の皆さまのご厚意により2009年3月に開園しました。

現在11歳～15歳の男子5人が暮らし、近隣の小・中学校に通学しています。

■3月8日、44回「里子訪問・学校訪問の旅」の参加者7人が訪問、子どもたちと一緒に昼食を食べて交流した。

■3月14日、村西宏章さん(千葉県、会員)と島田知美さん(東京都、会員)が訪問、近くのレストランで一緒に夕食するなどして、子どもたちと交流した。



「里子訪問・学校訪問の旅」の皆さんと

カンボジアの小学校に2つの井戸が完成

3月6日、44回「里子訪問・学校訪問の旅」の中で、甘楽智恵子様が「アムペル小学校」(コンボンチャム県・生徒数=223人)に寄贈した井戸贈呈式を行った。旅に参加したメンバー7人が出席した。

3月13日、武藤和義・康代様が「チュロドンボン小学校」(クラチェ県・生徒数=115人)に寄贈した井戸贈呈式を行った。根岸理事長が出席した。

あと2校の小学校に寄贈した井戸贈呈式を17日に予定していたが、コロナウイルス感染拡大予防のため全国の学校が臨時休校したため中止した。6月に実施する予定。



武藤和義・康代様寄贈の井戸



甘楽智恵子様寄贈の井戸

3月に完成した井戸の内訳

	寄贈者名	学校名	生徒数	所在地(県名)
1	甘楽智恵子 様	アムペル小学校	223人	コンボンチャム県
2	武藤和義・康代 様	チュロドンボン小学校	115人	クラチェ県

※通算の井戸設置数(2003年～): 344基 (3月現在)

3つの小学校校舎を建設中です

本会では、カンボジアからの要請を受け、3つの地区で小学校校舎を建設している。校舎はいずれも3教室。6月～9月にかけて、贈呈式を予定している。

①ポーセレイ小学校(シエムリアップ県・生徒数1223人)

学生団体、京都大学内サークル「パンピット」の資金協力です。2月に着工した。2月には、パンピットの皆さんがカンボジアに行き、建設作業の手伝いをしてくださいました。9月に完成予定。

②メーボン小学校(プレイバン県・生徒数1324人)

匿名の日本人篤志家の資金協力により、3月に着工した。6月に完成予定。

③プノンビビア小学校

(コンボンチャム県・生徒数11幼稚園のみ50人)

匿名の日本人篤志家の資金協力により、3月に着工した。6月に完成予定。完成すれば、約150人の小学生が学ぶことができる。



ポーセレイ小学校建設現場で生徒と交流する



メーボン小学校着工式



プノンビビア小学校着工式

スラム街で暮らす子どもたちを訪問

3月7日、44回「里子訪問・学校訪問の旅」の参加者がプノンペン市内のスラム街を訪問、子どもたちに、日本から持ち寄ったリサイクル品(衣料品と食料品)を配布した。

また3月8日にも、夢ホームの近くにあるスラム街を訪問、子どもたちに食料品を配布した。

プノンペン市内のスラム街は、



リサイクル衣料品を配りました

2008年に廃止した旧ゴミ処分場の周辺に点在しており、そこで暮らす子どもたちは、新ゴミ処分場で金になるゴミを回収している。



生徒に好評だった綱引き

ミニ運動会開催

「プレチーク小学校」(トゥボンクモム県)で予定していた「子どもフェスティバル」(運動会)が、コロナウイルスのため11月に延期されたため3月13日、「チュロドンボン小学校」(クラチェ県)で行われた井戸贈呈式のと、テストを兼ね「ミニ運動会」を開催した。行ったのは綱引きと玉入れの2種目。

生徒たちには初めての体験だったが、とても盛り上がり好評だった。

教育支援をお願いします!

「クメール教育里親基金」では、教育支援を希望するカンボジアの子どもたちを会報紙面で紹介いたします。支援してくださる方は、子どもの名前を添えて事務局までご一報ください。

また、既に里子をお持ちの方も歓迎いたします。顔の見えるマン・ツー・マンの教育支援です。



ユーン・ビセット君
(男の子)
チアシム小学校
5年生 (11歳)

●家族構成: 父親死亡、母親出稼ぎに出ている。祖母と弟の3人で暮らす。
●好きなこと: サッカーをすること。



ヴィー・ヴォッターちゃん
(女の子)
チアシム小学校
4年生 (10歳)

●家族構成: 父親離婚、母親、兄2人の4人で暮らす。
●好きなこと: 本を読むこと。



チャンター・ダリンちゃん
(女の子)
チアシム小学校
2年生 (9歳)

●父親離婚、母親は出稼ぎに出ている。祖母、弟、妹の4人で暮らす。
●好きなこと: 本を読むこと

関連活動アラカルト

2月19日、遠藤啓さん(静岡県、会員)が、鈴木千雄さん(故人)が寄贈した「デチョーアンカイン小学校」(カンボット県・生徒数1100人)を訪問、子どもたちにお菓子や学用品をプレゼントしました。また、昨年訪問した時に撮った集合写真、生徒たち全員に差し上げました。

3月17日、20日、榎戸徹彦さん(横浜市、理事)が「夢ホーム」で第42回「製造によるアクセサリー作り技術講習会」を開催、夢ホームの子どもたちが受講しました。



明るく元気な子どもたち



講習会の様子

里子へのプレゼントは 随時受け付けています

- 次は6月に訪問を予定しています。準備の都合上5月20日までに現物を郵送、又は所定の振込票で送金をお願いいたします。
- 諸事情により、スレゼントを里子にお届けできないときは、次の訪問時のお届けになります。予めご承知ください。
- 手紙のみもお届けしますが、少しでもスレゼントがあると里子が喜ぶと思います。

現地購入(プレゼント代を振込票にてご送金ください)

・自転車(中古品)	7,500円
・お米(50キロ入り)	4,500円
・ティシャツ2枚&サンダルセット	2,000円
・本(絵本2冊・中学生以上は英語辞書1冊)	1,000円
・お菓子セット(お菓子の詰め合わせ)	1,000円
・文房具セット(ノート、筆記用具等)	1,000円

※上記の代金は、現地で物品調達や里子へ届けるための車代等の諸経費として、原価に20%を上乗せしております。
※里親様が現地へ行き、里子にスレゼントを直接届ける場合は、原価での購入になります。

■日本から持参(事務局宛てにお送りください)

空港からの持ち出しに重量制限がありますので、レターパックやA4サイズの封筒に入るくらいまでのサイズでお預かりします。重量が重い場合、日本からの持ち出しができないこともあります。予めご承知ください。

里子への教育支援金を 隔月に届けています

本会のカンボジア事務所では現地スタッフが、教育里子が通学する小学校(27校)を隔月に訪問、教育里親様より頂戴した年会費(1人の里子につき3万円)の中から、42%に当たる12,600円を6回に分け、米ドルに換金して届けている。

中学校、高等学校に通う教育里子も出身校の小学校に集まり、支援金を受け取っている。

3月下旬、2月と3月分を届けた。



教育支援金を届けています

根岸理事長が活動の合い間をみて、5人の里子を訪問、教育里親さんから預かったスレゼントを届けた。また、変更及び新規に支援を開始した里子(12人)に会い、今の暮らしをリサーチした。帰国後、教育里親さんにレポートする。



里子を訪ねた村西さん(右)

クメール教育里親基金活動レポート

渡辺勝正さん、楠美和さんが 友好勲章授章



授章したみなさんと

渡辺勝正さんと楠美和さんの2人の日本人が「カンボジア王国友好勲章」を授章、3月11日、プノンペン市内の「サンウェイホテル」で式典と祝賀会が行われた。シアン・ブンレン内務大臣が友好勲章を授与した。渡辺勝正さん(山形県酒田市在住)は、個人で沢山の小学校校舎をカンボジアに寄贈、楠美和さん(プノンペン在住)は、長きにわたり孤児院を経営し、カンボジアの発展に貢献したことが高く評価された。個人的な付き合いがある根岸理事長が祝賀会に招待され、出席した。

神戸・生田神社で 豆まきに参加

2月3日、神戸ユネスコ協会(神戸市中央区・団体会員)の招きで、生田神社(神戸市内)で行われた恒例の豆まきに根岸理事長が参加した。壇上からの豆まきは初体験だった。当日は真冬にしては穏やかな日になり、多くの神戸市民が狭い境内に詰めかけた。



神戸ユネスコ協会の皆さんと

おかげさまで自立しました

小学3年から中学2年まで6年間にわたり「クメール教育里親基金」による教育支援を受け、現在自立して暮らす元里子、チェア・チャントンさん(22歳)の自宅を訪問した。

チャントンさんは中学2年まで教育支援を受けたが、父親が亡くなり病弱の母親を助けるため中途退学して縫製工場に就職した。4年前に結婚し、2歳の子がいる。

夫婦ともに縫製工場に勤務、その間は同居の母親が子守っている。

チャントンさんは、日本の里親さんが一度訪問してくれたことを良く覚えていて、教育支援を心から感謝していますと話していた。



自立したチャントンさんと家族

投稿 カンボジアを訪れて(2)

印象的だったのが子どもたちの足元を見ると、サンダルを履いている子と履いていない子がいたことです。このことは家庭の経済状況を表しているようで、サンダルを履いていないことが経済状況が良くない証拠だそうです。

そんな中でも真っ直ぐに生きるカンボジアの子どもたちを直接目にすることで、自分たちがいかに恵まれているかということに気がつき、自分たちが置かれている環境に感謝するきっかけとなりました。

また、多く笑顔を見たり、感謝されたりして、「もっとこのような人たちのためになにかできることはないのだろうか」という、今まで自分にはなかった自主的な考えも生まれてきました。

この井戸贈呈式の日だけでも、多くのことを刺激されました。

他にもカンボジアの悲しい過去について学び心を痛めたり、夢ホームにお邪魔して施設の子供たちと楽しく過ごしたり、スラム街で衣類の配

布活動をしたなど、充実した日々を過ごすことができました。

また、「21世紀のカンボジアを支援する会」の方々に会えたこともまた、私たちにとてもかけがえのないものです。右も左もわからない私たちに優しく接して下さった皆さんには、感謝しかありません。

私たちはカンボジアを訪れたことで多くのことを学び、考え、感じる事ができたのは、とても有意義なことだったと思います。これからは活動にもより一層力を加えていけるように、努力していきたいです。

この貴重な体験をさせていただいたことに感謝して、これからも家庭クラブ一同、活動していきたいと思っています。(おわり)

北海道札幌手稲高等学校 家庭クラブ所属 渡邊咲也加

札幌手稲高校の皆さん

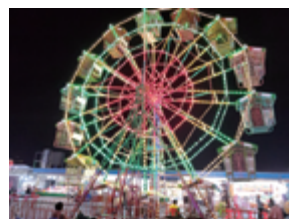


カシューナッツの木

日本でも馴染みのカシューナッツは、カンボジアの名産品だ。たまたま訪問した民家の庭に木が植えられていた。カシューナッツは落花生と同じように、土の下から掘り出すと思われている人が多いかも？



カシューナッツの木



お水の代わりにコーヒ

●プノンペン市内の喫茶店でコーヒを飲んでいたら、水の代わりにコーヒが運ばれてきた。勿論サービス。カンボジアのコーヒは何故か日本人の口に合わないが、このコーヒは日本人好みの良い味だった。



コーヒ

レトロな乗り物「シクロ」が人気

ひと昔前、市民の足として使われた人力車「シクロ」、今はトクトクやパスアップに押されて乗る人は少ないが、観光用として欧米人に人気のようだ。



シクロ(人力車)

遊園地がオープン

●プノンペン市内の通称「日本橋」の近くに、遊園地がオープンした。夜間のみ営業、料金は1回1ドルくらいとのこと。土日は家族連れでにぎわっている。平和の証。



すきまだけの木造校舎

校舎建設を希望する小学校があるという情報により、3月12日リサーチに出かけた。プノンペンから車で約3時間半の所にある「スワイブアム小学校」。(コンボンチャム県・生徒数=112人、教師数=3人)



ここで学ぶ生徒は1年生～4年生まで。5年生～6年生は、校舎が狭い(2教室)ため、村から8キロ離れた別の小学校で学んでいるという。ここに新校舎ができれば、1年生～6年生全員一緒に学ぶことができる。

現存の木造校舎は、2008年に村人たちの寄付で完成。しかし壁はすき間だらけで屋根も雨が漏るため、雨が降ると休校になってしまう。

校長のツー・チャントウ先生は、善意ある日本人に校舎の寄贈をお願いしている。

2020年度 里子訪問・学校訪問の旅 年間日程表

回	成田出発日	成田帰国日(延泊)	申込期限
終了 第44回	3月5日(木)	3月11日～(13日)	2月5日
中止 第45回	7月2日(木)	7月8日～(10日)	6月2日
第46回	11月5日(木)	11月11日～(13日)	10月5日

本会の会員状況をお知らせいたします (2020年3月末日現在)

●教育里親会員	248名
●個人会員	97名
●団体会員	8団体
●寄付協力者(単発)	59名

合 計 412名

書き損じハガキ・未使用切手

・商品券等をお送りくださいませ



本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。

事務局便り

「里子訪問・学校訪問の旅」は7人参加して無事終了しました。人数でしたが、とても有意義な旅でした。7月の旅はコロナウイルス感染拡大が予想されますので中止し、次は11月5日～11日を予定しています。その頃にはコロナウイルスが終息してほしいものです。

お年玉募金ですが、3月31日までに51人の方から397,500円のご支援を頂きました。誠にありがとうございました。3月、7月は中止になりましたが、11月に開催予定の「子どもフェスティバル(運動会)」の開催費用その他現地活動のため大切にに使わせて頂きます。5月3日～4日に予定していた「カンボジア・フェスティバル」(代々木公園)は、コロナウイルス感染予防のため中止になりました。残念ですが、当分は自宅でゆっくり過ごしましょう。

創立20周年記念祝賀会は12月に延期しましたが、創立20周年記念誌(100頁)は予定通りに完成しました。1冊千円(送料込み)でお送りしますので、ご希望の方は事務局までご連絡願います。

5月～6月の予定

会報「アンコールワット」5月1日付第112号発行

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大が、世界中に暗い影を落としている。日本も感染者が急増しており、4月7日に「緊急事態宣言」が発出されたところである。

楽しみにしていたオリンピック・パラリンピックが延期、学校も臨時休校がゴールデンウィーク明けに延びた。

外出自粛要請はまだ続くようで、さらなる景気の悪化が予測される。

そんな中でも発生源である中国はピークを過ぎて平静に向かっており、イタリアもピークを過ぎたといわれている。翻りわが国のピークはまだ先のようだが、今こそ国民が自粛に協力すれば、なだらかなピークを迎えた後に下火になっていくだろう。

朝の来ない夜はない。ここは日本人の踏ん張り所。まずは自ら感染しないよう気をつけるとともに、他の人にも気を配る姿勢が求められる。(根岸)

次号(第113号)遅延のお知らせ

本会報紙面の大半は、現地での取材記事が占めています。

次に発行する第113号ですが、現在、コロナウイルス感染予防措置により、カンボジアへの入国が事実上禁止されています。また、日本においても「緊急事態宣言」が発出され、カンボジアからの帰国に支障が生じることとなります。

6月頃には状況が改善されることを期待し、カンボジア渡航を計画していますので、次の会報を8月1日付第113号として7月下旬頃、会員の皆様にお届けする予定です。

春さんのカンボジアレポート～カンボジアでの武漢ウイルス災禍～

昨年12月から世界を恐怖に貶めている武漢ウイルスですが、カンボジアでの最初の感染者は、1月27日に中国植民地化したシアヌークビルの中国人。次いで3月3日に日本に帰国した日本人男性にうつされた、シェムリアップのカンボジア人ツクツクドライバー。これでカンボジア在住日本人として、肩身の狭い思いをさせられました。



初のカンボジア人感染で、フン・セン首相は直ちに、シェムリアップの全ての学校の休校を命じました。

次は、メコン川クルーズ船のイギリス人観光客3人。次はタイ旅行したインターナショナルスクールのカナダ人スタッフ。この事でプノンペンの全ての学校が休校となりました。

此処までのカンボジア人感染者は1人だったのですが、3月17日にマレーシアでの宗教行事に参加して帰ってきた、カンボジア人の多数の感染が確認され一挙に増えて、3月21日付けで53人になってしまいました。

感染者は全土に広がりました。幸いなことに、まだ犠牲者は出ていません。

この中国禍でカンボジアから在住中国人のほとんどの20万人が帰国し、観光地に中国人観光客はいなくなってしまうました。なので街は静かになり、丁度10年前の風景になりました。でも、中国人を相手とする業者は悲鳴を上げています。

こんな中国禍でも、フン・セン首相は北京を訪問して習近平主席を励ましたり、さまようクルーズ船を入国させて乗客を自国に送り届けたりで、したたかさを見せています。

(写真出典=Khmertimes)

里親会員 鈴木春男(カンボジア・シェムリアップ在住)

活動に参加しませんか

正会員として

●教育里親会員(年額3万円)

子どもたちへ直接払う年額

1万2千6百円(42%)

会の運営に回す年額

1万7千4百円(58%)

●個人会員(年額5千円)

●団体会員(年額1万円)

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

会費・寄付金の送付は、銀行振込、郵便振替、現金書留で。

【口座名】

21世紀のカンボジアを支援する会

【ゆづちょう銀行】 当座 0160916

019支店 練馬支店 普通 4098235

●ゆづちょう銀行の自動引き落としを

ご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

プノンペンに現地事務所オープン



現地スタッフたち

本会の現地事務所はしばらくの間児童養護施設「夢ホーム」に置いていたが、4月1日からプノンペン市内のボンケンコン地区に1LDKの部屋を借りた。

新事務所は23階建てコンドミニウムの9階にあり、プノンペン市内が一望できる素晴らしいロケーション。現地スタッフの住居も兼ねる。プノンペンにお越しの際はお立ち寄りください。

創立20周年記念誌が完成しました

本会は2000年1月に創立後、昨年12月に丸20年が経過しましたが、その間の記録を一冊の本にまとめました。100頁、モノクロですが懐かしい写真を沢山掲載、カンボジアを知る意味でも必読の一冊です。

会員の皆様には送料込み一冊千円で郵送いたします。是非お求めください。(郵便振込票をご利用ください)

☎ 03(3991)2854
FAX 03(3557)1213

20年の思いを込めて

